■ 河合塾テキスト「地理総合，地理探究（共通テスト対応）〈2026 完成シリーズ〉」演習問題 解説 ■

【第17講】

解答番号	正解	解　説	重要度
1	①	①：誤文。アメリカ合衆国では，旅客輸送においては短距離は自動車，長距離は航空機が利用される。貨物輸送においては短距離は自動車，長距離は鉄道などが利用されることが多い。短距離輸送では，旅客，貨物ともに自動車の利便性が高く，長距離の旅客輸送は速度の速い航空機がよく利用される。②：正文。スイスの鉄道路線の密度は極めて高い。山岳鉄道なども発達し観光に利用されている。③：正文。中国では，おもに東部の主要都市間に高速鉄道網の整備が進んでいる。④：正文。日本では，貨物輸送における鉄道のシェアは低く，自動車と船舶がおもに利用されている。	★★
2	③	Ｊ：国際線。Ｋ：国内線。航空輸送は長距離輸送であるため，国際線での需要が高く輸送量が多くなる。**サ**：アメリカ合衆国。経済規模の大きい先進国であるため，輸送量の合計が最も多い。また，３か国中で面積が最も大きいため，国内線（Ｋ）の輸送量が多い。**シ**：オランダ。EU 加盟国であり，周辺諸国との航空貨物の輸送需要があり，国際線（Ｊ）の輸送量が比較的多い。一方，面積が非常に小さいため，国内線（Ｋ）の輸送需要がない。**ス**：インド。発展途上国であり，輸送量が比較的少ない。	★★
3	①	2018 年：Ａ。2000 年：Ｂ。とくに 2000 年代以降，中国では工業化が進展し，中国の港でのコンテナ貨物取扱量が増加した。上位 10 位以内に入る中国の港は，Ｂでは３港，Ａでは７港であり，18 年間で急増したと考える。上位１～５位の港：**ア**。６～ 10 位の港：**イ**。東南アジアの中継貿易港のシンガポールや，中国最大の貿易港のシャンハイは，東・東南アジアで最上位の港である。	★★
4	③	③ 韓国。1997 年のアジア通貨危機で深刻な経済的打撃を受けた後，産業・社会の IT 化を一気に進める政策がとられたため，短期間に急速に普及が進んだ。① アメリカ合衆国。商用インターネットが最初に開始された国であり，最も早い時期にインターネット普及率が 10 %を超えた。② 日本。アメリカ合衆国に次いでインターネット導入時期は早かったが，韓国よりも普及の速度は遅かった。④ ロシア。旧社会主義国でインターネットの導入が最も遅れた。	★★
5	④	④：正しい。デジタルデバイドは，インターネットなどの情報技術を利用できるヒトとできないヒトとの間に生じる情報格差のことをいう。①：誤り。インターネットは，さまざまな回線によって世界中のサーバーコンピュータが相互に接続された巨大なコンピュータネットワークのことである。衛星通信だけではない。②：誤り。インターネットの利用者数は，アメリカ合衆国より中国の面積のほうが広く表現されているため，中国のほうが多い。③：誤り。西ヨーロッパの多くの国々は 60 %以上，サハラ以南のアフリカ諸国は 40 %未満となっている。	★
6	②	② イギリス。先進工業国であり輸出額に占める食料品の割合が低い。① アルジェリア。乾燥気候が国土の多くを占め，原油や天然ガスの生産・輸出に依存するモノカルチャー経済の傾向が強いため，輸出額に占める食料品の割合が極めて低い。また，農業に不向きな気候が多くを占めるため，輸入額に占める食料品の割合が高い。③ ニュージーランド。農業先進国であり輸出額に占める食料品の割合が高い。④ コートジボワール。カカオ豆の生産・輸出に依存するモノカルチャー経済の傾向が強いため，輸出額に占める食料品の割合が極めて高い。	★★

7	④	輸出依存度は，脚注にあるとおり，GDP（国内総生産）に対する輸出額の割合。国内市場が小さく中継貿易を行うシンガポールや，輸出指向型の工業化が進展するベトナムでは高くなり，Ｊ，Ｌのいずれかに該当するが，社会主義国で経済水準が低く，１人あたり GDP が低いＪがベトナム，アジア NIEs で経済水準が高く，１人あたり GDP が高いＬがシンガポールとなる。残るＫは，先進国で経済水準が高く，１人あたり GDP が高いカナダとなる。日本が輸入する主要な品目では，カナダからは先進国であるが鉱産資源や農畜産物の輸入が多くツとなる。シンガポールからは高度な技術を要する集積回路や医薬品の輸入が多くタ，ベトナムからは労働集約的な電気機器や衣類の輸入が多くチとなる。	★★
8	②	いずれの年次においても貿易額が最も少ないＳは，発展途上国のペルーに該当する。2019 年の輸出額が相互に 600 ドル以上に達するＰ，Ｑは，経済規模が大きく貿易量が多いアメリカ合衆国，中国のいずれかである。よって，Ｒがオーストラリアに該当する。Ｐ，Ｑのうち，Ｑは 1999 年と比較して 2019 年には貿易額が大きく増加していることから，この期間に工業化が進展した中国に該当する。とくにＲ（オーストラリア）を輸出元，Ｑを輸出先とする貿易額が大きく増加しており，石炭や鉄鉱石などの輸入が急増したと考えられる。残るＰはアメリカ合衆国に該当する。	★★★
9	⑥	経済規模が大きく貿易額が最も大きいＪが，アメリカ合衆国に該当する。NAFTA 域内での製造業の拠点が増加し，とくにＪ（アメリカ合衆国）への製品の輸出やＪからの部品の輸入が大きく増加し貿易額が急増したＬが，メキシコに該当する。残るＫはカナダに該当する。NAFTA との貿易額，とくに輸出額が急増し大幅な輸出超過（貿易黒字）となっているキが，中国に該当する。残るカは EU に該当する。	★★★
10	④	ODA の供与は，近隣諸国やかつての植民地など，地理的・歴史的な結びつきの強い地域に重点的に行われる場合が多い。④：スペイン。かつて多くの植民地があった中央・南アメリカ（ラテンアメリカ）地域の割合が高い。①：韓国。近隣のアジア地域の割合が高い。②：オーストラリア。近隣のオセアニア地域の割合が高い。③：フランス。かつて多くの植民地があったアフリカ地域の割合が高い。	★★★